

## 太陽光発電施設の設置にあたっての配慮事項

項目		配慮事項	配慮した内容
太陽電池 モジュール	全体	(1) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避ける。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないように、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめる。	浅間山麓の山林地域であり広域農道浅間サンライン沿いに位置するため、土地造成は必要最低限にとどめる計画とした
		(2) 公共的な眺望点からの景観への影響に特に留意し、必要に応じて完成予想図の作成(シミュレーション)等の実施を検討する。	別紙のとおり完成予想図を作成した
	配置	(1) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させる。	主要な道路である広域農道浅間サンラインに隣接するため道路境界から可能な限り後退させ、また、道路沿いに植栽を行う
		(2) 施設の規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が連続することを避ける。	敷地内の十分な幅の管理用道路によりパネルを複数に分割した
	規模	(1) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さは極力抑える。	パネル設置角度を10度とすることにより最高部分は1.7m程度に抑えた
		(2) 主要な道路や公共的な眺望点から見える場合は、太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑える。	パネル設置角度を10度とし、圧迫感を抑えた
	形態・ 意匠	(1) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせる。	効率の良い角度で全てのパネルを揃えて配置した
		(2) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周囲の山並み、建築物の屋根等と極力整合させる。	パネル角度は10度とし、周囲の地形と可能な限り整合させた
		(3) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路等から見えにくくする。	植栽を行い道路から見えにくくした

項目		配慮事項		配慮した内容
太陽電池 モジュール	材料・ 色彩等	(1) 低反射のものを選択するか防眩処理を 施す等、太陽光の反射を低減する対策を 行う。また、素材の結晶が目立たないも のを選択する。		変換効率の優れた製品を選択し た
		(2) 黒又は濃紺を基本とし、低明度かつ低彩 度の目立たないものとする。		黒色を選択した
		フレーム	(1) 低反射の素材を用いる。	可能な限り低反射とした
			(2) 太陽電池モジュールと同 系色を用いる。	可能な限り細い製品を選択した
付属設備	(1) フェンス等については、色彩、形態・意 匠に配慮する。		施設の全集にフェンスを設置し たが、景観に配慮し濃い緑色（ 2.5BG5/8）とした	
	(2) 電柱電線類については、極端に増加させ ないよう、低減に努める。		新設は必要最低限の本数とする よう検討した	
	(3) 架台、パワーコンディショナー及び変圧 器等の付属設備については、色彩等に配 慮する。		架台のマンセル値はN6とし、 変圧器は落ち着いた色相のペー ジュとし、色彩に配慮した	
敷地の緑化	(1) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発 揮できるよう、根巻きを行った苗などの 使用を検討するとともに、植栽間隔や苗 木の大きさに配慮する。		特に道路側からの視界にパネル の存在感を低減させるため、十 分検討し植栽計画を行った	
	(2) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低 木性の樹種を避け、地域に適した植生と する。		イチイを採用した	
その他	(1) 施設の規模が大きく主要な道路や住宅地 に反射光の影響が懸念される場合は、配置 や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へ い措置について検討する。		浅間サンラインに向いているが 後退や植栽により反射光の影響 は少ないと考えられる	
	(2) 施設及び敷地内は、定期的に保守点検を 行うなど、適切に維持管理を行い、景観の 保守に努める。		定期的に保守点検を行い、適切 に維持管理を行うことにより景 観の保守に努めます	

なお、上記以外でも、設置箇所周辺の土地利用状況、周辺景観の状況に応じて、より効果的な配慮方法を工夫してください。

